

神に問いかける信仰

ハバクク書1章

主よ、わたしが呼んでいるのに、いつまであなたは聞きいれて下さらないのか。わたしはあなたに「暴虐がある」と訴えたが、あなたは助けて下さらないのか。(2)

このハバクク書は、預言者ハバククが心の内にある疑問を主に投げかけ、主がそれに答えるという対話形式をとっています。彼は民を代表して主と格闘しています。

ハバククはまず、神の民イスラエルの乱れきつた現状を嘆きつつ、正義の神がなぜこれらをそのままにしておかれるのか、悪人が栄え、善人が苦しむのを見過ごしておられるのかと訴えます。彼が苦しんだのは、ハバククがどんなに訴えても主はそれを聞いてくださらないかのように見えたことでした。聖書には、主は真実に呼び求める者たちの声を聞いて答えてくださると約束されています。しかし、現実はその約束とは違っているのです。ハバククはこのような疑問を心のうちに隠したままにはしませんでした。彼は大胆に主に問いかけます。「何ゆえ」という言葉を何度も繰り返しながら、約束の言葉と現実とが違っていることを訴え、主が立ち上がってくださいるように求めました。「何ゆえ」と主に問うことは必ずしも不信仰ではありません。たとえ現実がどのようなものであろうとも、正義の神がこの世界を支配しておられることを信じているからこそ、諦めることなく主に問い続けたのです。

ハバククが見せたこの大胆さと熱心さがわたしたちのものとなりますように。主の約束の言葉を信じるゆえに、諦めることなく主に問いかける者たちでありたいと願います。